

第3期決算公告
平成28年6月14日

東京都千代田区九段南1-3-1
あおぞら投信株式会社
代表取締役社長 柳谷 俊郎

貸借対照表
(平成28年3月31日現在)

(単位：千円)

| 科 目 | 金 額 | 科 目 | 金 額 |
|---------|---------|----------|----------|
| (資産の部) | | (負債の部) | |
| 流動資産 | 232,418 | 流動負債 | 89,715 |
| 現金・預金 | 128,778 | 未払金 | 71,044 |
| 前払費用 | 2,713 | 未払手数料 | 27,651 |
| 未収入金 | 43,422 | その他未払金 | 43,392 |
| 未収委託者報酬 | 57,504 | 未払費用 | 2,974 |
| 固定資産 | 4,376 | 未払法人税等 | 643 |
| 有形固定資産 | 4,376 | 未払消費税等 | 5,097 |
| 建物 | 4,176 | 預り金 | 9,955 |
| 器具備品 | 199 | 固定負債 | 8,712 |
| | | 資産除去債務 | 7,542 |
| | | 繰延税金負債 | 1,169 |
| | | 負債合計 | 98,427 |
| | | (純資産の部) | |
| | | 株主資本 | 138,366 |
| | | 資本金 | 225,000 |
| | | 資本剰余金 | 225,000 |
| | | 資本準備金 | 225,000 |
| | | 利益剰余金 | △311,633 |
| | | その他利益剰余金 | △311,633 |
| | | 繰越利益剰余金 | △311,633 |
| | | 純資産合計 | 138,366 |
| 資産合計 | 236,794 | 負債・純資産合計 | 236,794 |

損益計算書

(自平成 27 年 4 月 1 日 至平成 28 年 3 月 31 日)

(単位：千円)

| 科目 | 内訳 | 金額 |
|--------------|---------|---------|
| 営業収益 | | |
| 委託者報酬 | 298,400 | |
| 営業収益計 | | 298,400 |
| 営業費用 | | |
| 支払手数料 | 136,077 | |
| 支払投資顧問料 | 28,216 | |
| 広告宣伝費 | 12,139 | |
| 調査費 | 7,960 | |
| 委託計算費 | 9,736 | |
| 営業雑経費 | 16,346 | |
| 通信費 | 1,503 | |
| 印刷費 | 14,292 | |
| 協会費 | 551 | |
| 営業費用計 | | 210,476 |
| 一般管理費 | | |
| 給料 | 191,112 | |
| 役員報酬 | 49,442 | |
| 給料・手当 | 111,675 | |
| 賞与 | 29,994 | |
| 法定福利費 | 19,963 | |
| 交際費 | 783 | |
| 旅費交通費 | 7,994 | |
| 租税公課 | 1,446 | |
| 不動産賃借料 | 9,093 | |
| 賃借料 | 3,648 | |
| 固定資産減価償却費 | 3,753 | |
| 資産除去債務利息費用 | 109 | |
| 支払報酬料 | 7,252 | |
| 消耗品費 | 584 | |
| 保守修理費 | 50 | |
| 会議費 | 819 | |
| 保険料 | 250 | |
| 送金手数料 | 512 | |
| 一般管理費計 | | 247,373 |
| 営業損失 | | 159,449 |
| 営業外収益 | | |
| 受取利息 | 32 | |
| 雑収入 | 5 | |
| 営業外収益計 | | 38 |
| 経常損失 | | 159,410 |
| 税引前当期純損失 | | 159,410 |
| 法人税、住民税及び事業税 | | △43,039 |
| 法人税等調整額 | | △613 |
| 当期純損失 | | 115,758 |

株主資本等変動計算書
(自平成 27 年 4 月 1 日 至平成 28 年 3 月 31 日)

(単位：千円)

| | 株主資本 | | | | | | 純資産 合計 |
|---------|---------|-----------|-----------------|-----------------------------|-----------------|------------|-----------|
| | 資本金 | 資本剰余金 | | 利益剰余金 | | 株主資本 合計 | |
| | | 資本 準備金 | 資本 剰余金 合計 | その他利益 剰余金 繰越利益 剰余金 | 利益 剰余金 合計 | | |
| 当期首残高 | 225,000 | 225,000 | 225,000 | △195,874 | △195,874 | 254,125 | 254,125 |
| 当期変動額 | | | | | | | |
| 当期純損失 | | | | △115,758 | △115,758 | △115,758 | △115,758 |
| 当期変動額合計 | - | - | - | △115,758 | △115,758 | △115,758 | △115,758 |
| 当期末残高 | 225,000 | 225,000 | 225,000 | △311,633 | △311,633 | 138,366 | 138,366 |

(注) 計算関係書類に係る事項の金額は、千円未満の端数を切り捨てて表示しております。

重要な会計方針に係る事項に関する注記

1. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産

建物については、定額法を採用しております。器具備品については、主に定率法によっております。

なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

| | |
|------|------|
| 建物 | 3年 |
| 器具備品 | 3～5年 |

2. その他計算書類作成のための基本となる重要な事項

(1) 消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜き方式によっております。

(2) 連結納税制度の適用

親会社である株式会社あおぞら銀行を連結納税親会社として、連結納税制度を適用しております。

(3) 会計上の見積りの変更

当社は、当事業年度において、平成 29 年 5 月にオフィスを移転することを決定いたしました。これにより、移転に伴い利用不能となるオフィスの「建物」資産について、耐用年数を移転予定月までの期間に短縮し、将来にわたり変更しております。

また、不動産賃貸借契約に伴う原状回復義務として計上していた資産除去債務についても、支出発生までの見込期間を相当年数短縮し、償却期間の変更を行っております。

この変更の結果、従来の方法に比べて、当計算期間の営業損失、経常損失および税引前当期純損失がそれぞれ 3,191 千円増加しております。

貸借対照表に関する注記

| | |
|-----------------------|-----------|
| 1. 有形固定資産の減価償却累計額 | 4,412 千円 |
| 2. 関係会社に対する金銭債権及び金銭債務 | |
| 短期金銭債権 | |
| 預金 | 90,633 千円 |
| 未収入金 | 43,422 千円 |
| 短期金銭債務 | |
| 未払手数料 | 23,974 千円 |
| その他未払金 | 35,343 千円 |

損益計算書に関する注記

| | |
|--------------|------------|
| 1. 関係会社との取引高 | |
| 支払手数料 | 99,921 千円 |
| 給料 | 191,112 千円 |
| 法定福利費 | 19,764 千円 |
| 不動産賃借料 | 9,093 千円 |
| 賃借料 | 2,674 千円 |
| 受取利息 | 32 千円 |
| 法人税、住民税及び事業税 | △43,422 千円 |

当該金額は、連結法人税額のうち、当社の個別帰属額であり、連結納税親会社から受領する金額であります。

株主資本等変動計算書に関する注記

1. 当事業年度末における発行済株式の種類及び株式数

| 株式の種類 | 当事業年度 期首株式数 | 当事業年度 増加株式数 | 当事業年度 減少株式数 | 当事業年度末 株式数 |
|-------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 普通株式 | 9,000 株 | - | - | 9,000 株 |

金融商品に関する注記

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社が事業を行うための資金運用については、短期的な預金等に限定し、また、資金調達については、借入によらず、株式の発行により行う方針です。なお、デリバティブ取引は行っておりません。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク並びにリスク管理体制

当社の営業債権である未収委託者報酬の基礎となる投資信託財産は、信託法により信託銀行の固有資産と分別管理されており、当該報酬は、計理上毎日の未払費用として投資信託財産の負債項目に計上されております。このため、顧客の信用リスクはありません。また、未収入金に係る顧客の信用リスクについては、取引先ごとの期日管理及び残高管理を行い、リスク低減を図っております。

(3) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合には、当該価額が異なる場合もあります。

2. 金融商品の時価等に関する事項

貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。

(単位：千円)

| | 貸借対照表 計上額 | 時価 | 差額 |
|-------------|--------------|---------|----|
| (1) 現金・預金 | 128,778 | 128,778 | - |
| (2) 未収入金 | 43,422 | 43,422 | - |
| (3) 未収委託者報酬 | 57,504 | 57,504 | - |
| 資産計 | 229,704 | 229,704 | - |
| (1) 未払手数料 | 27,651 | 27,651 | - |
| (2) その他未払金 | 43,392 | 43,392 | - |
| 負債計 | 71,044 | 71,044 | - |

(注1) 金融商品の時価の算定方法に関する事項

資産

(1) 現金・預金、(2) 未収入金、並びに(3) 未収委託者報酬

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

負債

(1) 未払手数料、並びに(2) その他未払金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(注2) 金銭債権の決算日後の償還予定額

(単位：千円)

| | 1年以内 | 1年超 |
|-------------|---------|-----|
| (1) 現金・預金 | 128,778 | - |
| (2) 未収入金 | 43,422 | - |
| (3) 未収委託者報酬 | 57,504 | - |
| 合計 | 229,704 | - |

税効果会計に関する注記

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

繰延税金資産

(単位：千円)

| | |
|-----------------|---------|
| 未払費用 | 917 |
| 未払賞与 | 10,832 |
| 資産除去債務 | 2,327 |
| 未払事業税 | 109 |
| 未払事業所税 | 42 |
| 繰越欠損金 | 30,136 |
| 減価償却超過額 | 70 |
| 繰延資産償却超過額 | 951 |
| 繰延税金資産小計 | 45,388 |
| 評価性引当額 | △45,388 |
| 繰延税金資産合計 | - |
| 繰延税金負債 | |
| 資産除去債務に対応する除去費用 | △1,169 |

| | |
|---------------|--------|
| 繰延税金負債合計 | △1,169 |
| 繰延税金資産(負債)の純額 | △1,169 |

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

税引前当期純損失を計上したため記載を省略しております。

3. 決算日後の税率変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

平成 28 年 3 月 31 日に「所得税法等の一部を改正する法律」(平成 28 年法律第 15 号)及び「地方税法等の一部を改正する等の法律」(平成 28 年法律第 13 号)が公布され、平成 28 年 4 月 1 日以降開始する事業年度より法人税率等が変更されることとなりました。

これに伴い、繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に使用される法定実効税率は、一時差異等に係る解消時期に応じて以下のとおりとなります。

平成 30 年 3 月 31 日まで 30.86%

平成 30 年 4 月 1 日以降 30.62%

この税率の変更により、当事業年度末における一時差異等を基礎として再計算した結果、固定負債に計上されている繰延税金負債の金額が 53 千円減少し、法人税等調整額(借方)が同額減少しております。

資産除去債務に関する注記

資産除去債務のうち貸借対照表に計上しているもの

- (1) 当該資産除去債務の概要

オフィスの不動産賃貸借契約に伴う原状回復義務等であります。

- (2) 当該資産除去債務の金額の算定方法

使用見込期間を取得から 26 箇月と見積り、割引率は 1.471%を使用して資産除去債務の金額を算定しております。

- (3) 資産除去債務の総額の増減

(単位：千円)

| | |
|--------------|-------|
| 期首残高 | 5,906 |
| 時の経過による調整額 | 109 |
| 見積りの変更による増加額 | 1,527 |
| 期末残高 | 7,542 |

- (4) 資産除去債務の見積りの変更の内容及び影響額

当事業年度において、オフィスを移転することを決定いたしました。これに伴い、当該オフィスの原状回復義務として計上していた資産除去債務について、償却に係る合理的な期間を短縮し、将来にわたり変更しております。これによる資産除去債務の増加額は、1,527 千円であります。

関連当事者との取引に関する注記

1. 関連当事者との取引

(ア) 親会社及び法人主要株主等

| 種類 | 会社等の名称 | 所在地 | 資本金又は出資金(億円) | 事業の内容 | 議決権等の所有(被所有)割合(%) | 関連当事者との関係 | 取引の内容 | 取引金額(千円) | 科目 | 期末残高(千円) |
|-----|---------|---------|--------------|-------|-------------------|-------------------------|-------------------|----------|--------|----------|
| 親会社 | ㈱あおぞら銀行 | 東京都千代田区 | 1,000 | 銀行業 | 被所有直接100% | 役員を受入 出向者の受入 事務代行 | 税額のうち連結納税親会社からの受入 | 43,422 | 未収入金 | 43,422 |
| | | | | | | | 出向者負担金 | 210,877 | その他未払金 | 35,343 |
| | | | | | | | 代行手数料 | 99,921 | 未払手数料 | 23,974 |

(イ) 兄弟会社等

| 種類 | 会社等の名称 | 所在地 | 資本金又は出資金(億円) | 事業の内容 | 議決権等の所有(被所有)割合(%) | 関連当事者との関係 | 取引の内容 | 取引金額(千円) | 科目 | 期末残高(千円) |
|-------------|---------|---------|--------------|---------|-------------------|-----------|-------|----------|-------|----------|
| 同一の親会社を持つ会社 | あおぞら証券㈱ | 東京都千代田区 | 30 | 金融商品取引業 | なし | 事務代行 | 代行手数料 | 34,523 | 未払手数料 | 2,984 |

(注) 1. 上記(ア)～(イ)の金額のうち、取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。

2. 取引条件及び取引条件の決定方針等

- (1) 出向者負担金については、親会社の給料基準に基づいて金額を決定しております。
- (2) 代行手数料については、一般の取引条件と同様に決定しております。

2. 親会社に関する注記

(1) 親会社情報

㈱あおぞら銀行 (東京証券取引所に上場)

1株当たり情報に関する注記

| | |
|--------------|------------|
| 1株当たり純資産額 | 15,374.10円 |
| 1株当たり当期純損失金額 | 12,862.04円 |

- (注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、1株当たり当期純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
2. 1株当たり当期純損失金額の算定上の基礎は以下のとおりであります。

| | |
|--------------|-----------|
| 当期純損失 | 115,758千円 |
| 普通株主に帰属しない金額 | - |
| 普通株式に係る当期純損失 | 115,758千円 |
| 普通株式の期中平均株式数 | 9,000株 |